

短 報

マメ科オクシモハギの多雪地への帰化 (五百川 裕^a, 大橋広好^b)Yu IOKAWA^a and Hiroyoshi OHASHI^b: *Lespedeza davidii* Franch. (Leguminosae) Naturalized in Deeply Snowy Region of Japan

Summary: Naturalized *Lespedeza davidii* Franch., a native of southeastern China, is reported from Niigata Prefecture in north central Japan. It grows on verges of the newly constructed road in a natural forest in Mt. Kurokura-yama, Myôkô-shi. The plants of the species must be grown from seeds imported by a Japanese private enterprise from China as seeds of *L. bicolor* Turcz. for ecological restoration. Naturalized *Lespedeza davidii* is already reported from several places in western Honshu and Shikoku, but this locality is northernmost habitat for the species and is entirely different from its native habitat in southeastern China to be in deeply snowy region.

オクシモハギ *Lespedeza davidii* Franch. はマメ科ハギ属の種で、中国南東域の各省に広く分布し (Li and Chen 1995) 大型の開放花のみを持つヤマハギ亜属 Subgenus *Macrolespedeza* において、茎に長軟毛が密生し数本の稜が翼状に発達すること、葉にも長軟毛があり、小葉が大型でしばしば長さ 10 cm 以上にもなること (大橋 2003) などで他種から比較的容易に識別できる。本種の日本への帰化については、山口県 (真崎 1999)、愛媛県および香川県 (大橋ら 2003) から既に報告されており、その後、高知県土佐清水市で採集された標本 (伊藤隆之, 12 Oct. 2003) も東北大学植物標本館 (TUS) に収蔵されている。産地はいずれも林道法面であり、土木業者による中国産種子の散布による帰化と考えられる (大橋 2003)。

著者の一人五百川は、2005年9月に新潟県妙高市黒倉山の標高815 m の林道法面において3株のオクシモハギをみつけた。いずれも高さ150 cm 程度にまで伸長して、根元から数本の茎に分かれ、生育状態は良好であった。花序形成前であったが、同年10月には開花を、2006年11月には開花および結果を確認した

(Fig. 1A–C)。周辺に生育するヤマハギ *Lespedeza bicolor* Turcz. やケハギ *Lespedeza thunbergii* (DC.) Nakai subsp. *patens* (Nakai) H. Ohashi よりも開花・結果が遅く、11月中旬でも果実は未熟で、この後、成熟した種子が結実するかどうかは、林道が冬季通行止めになるため確認できていない。現地は冬季の積雪 (年最深積雪平年値) が150 cm を超す地点であり、普通11月下旬には降雪がある。このため、冬期間はこれらの個体は大部分あるいは全体が積雪で覆われる状態であると思われる。

このオクシモハギの由来を調べるために、林道を管理する新潟県上越地域振興局農林振興部から法面施工業者を教えてもらい、その業者に施工年と吹き付け種子の種類を問い合わせたところ、1996年の秋に新潟県の仕様書に従って、郷土種 (緑化工事使用植物の区分用語で、当該地域に自生分布する種と定義されることが多い) としてヤマハギとメドハギ (仕様書は和名のみで指定されている) を含む混合種子を吹き付けたことが分かった。なお、メドハギは *Lespedeza sericea* の名称で種子が売られているものを使用したという。さらにこの業者に使用した種子を購入した種苗会社を教えてもらい、その種苗業者に種子の産地を問い合わせたところ、ヤマハギは中国、メドハギはアメリカから輸入しているとのことであった。種子の採集法については、メドハギはアメリカ西部に種子生産業者があつて、そこから直接仕入れているが、ヤマハギは中国関連取り次ぎ業者を介しているので詳細は不明であるという。オクシモハギの種子は、果実および種子のサイズの類似性からしても、中国から輸入したヤマハギの種子に混入していた可能性が高いと考えられる。参考までに、その他の大手種苗会社にも種子の産地を問い合わせたが、両種については、いずれも同じ原産国で、ヤマハギは中国、メドハギはアメリカから輸入との回答であった。



Fig. 1. *Lespedeza davidii* Franch. (photo on 10 Nov. 2006). A. Habitat on roadside in Mt. Kurokura-yama, Myōkō-shi, Niigata Prefecture, Japan. B. Inflorescences. C. Infructescences. D. Leaf axil after defoliation. E. Leaf axil of *Lespedeza bicolor* Turcz. in autumn (photo on 11 Oct. 2005).

著者の一人大橋は、本種を仙台市において栽培し、開花、結実したことを報告し、本種が中国での自然分布域や日本での帰化産地よりも北で生育することを示唆した（大橋ら 2003）。しかし、本報の新帰化産地は、野生状態の生育記録では最北であり、これまで記録されている産地とは全く環境の異なる多雪地である。積雪下での越冬は氷点下の低温からは保護されるが、長期の低温と過湿条件への耐性が必要であり、オクシモハギの多雪地における10年にわたる生育は、本種の適応力を示すものとして注目できる。現地での秋季の比較観察では、ヤマハギでは多くの葉腋に越冬芽が発達しているのに対して、オクシモハギでは発達した越冬芽は葉腋に見られず（Figs. 1D, E）、おそらくケハギと同様に茎の地上部は冬季に枯死し、地下部で越冬しているのではないかと思われ、根元から数本の茎

に分かれる形態もそれを推測させる。今後、周辺に生育するヤマハギ、ケハギ、メドハギと比較しながら、このオクシモハギの消長を観察していきたい。

証拠標本：新潟県妙高市黒倉山黒倉林道法面、ヨシ八池付近、標高815 m, 11 Oct. 2005, Y. Iokawa 6049 (TUS).

引用文献

- Li J. Y. and Chen Y. A. 1995. 胡枝子属. 中国科学院中国植物志編集委員会（編）, 中国植物志 **41**: 131–159. 科学出版社, 北京.
- 真崎 博 1999. 山口県産高等植物についての新知見. 山口県植物研究会会報 **2**: 4–7.
- 大橋広好 2003. マメ科. 清水建美（編）, 日本の帰化植物. pp. 102–124. 平凡社, 東京.
- , 根本智行, 伊藤隆之 2003. ハギ属の帰化植物 4 種. *J. Jpn. Bot.* **78**: 50–54.
- (^a上越教育大学自然系生物学教室,
^b東北大学附属植物園津田記念館)

第82巻1号正誤 Errata in Vol. 82 No. 1

頁 (Page)	列 (Column)	行 (Line)	誤 (For)	正 (Read)
25	Table 3	↑ 1	Type TW _{cp}	Type W _{cp}
26	Left	↑ 1	the oblong laminas	the oblong type
26	Right	↓ 3	the oblong lamina	the oblong type